

# ちばのWAの取り組み 2022年度、新たに取り組んだプロジェクトを紹介します。

## 『地域の共感』を『成果』につなげる NPOのための組織力強化ワークショップを開催しました。

「忙しくて寄付集めができない」「新しい仲間が増えない」「自団体の活動をうまく伝えることができない」など、多くのNPOが担い手不足や資金不足に悩んでいます。そういった課題を解決しようとちばのWA地域づくり基金では県内のNPOを対象に、組織基盤強化を目的とした連続ワークショップを開催しました。

全5回のワークショップでは、ビジョン/ミッションの深掘りから始まり、事業の提供価値を考える「関係者マップづくり」、実践をイメージしながら作る「ファンドレイジング計画づくり」などの4つのワークに取り組んでいただきました。約5か月間におよぶ長丁場のWSでしたが参加された8団体全てが完走。初回はビジョン/ミッションの整理に悩んでいた団体も、最終回ではこのWSでの学びと寄付集めに向けた具体的な計画を発表することができました。



### ◆スケジュールと主な内容◆

- 9/29 (木) ワーク1 〈ビジョンとミッションの整理〉
- 11/1 (火) ワーク2 〈関係者マップづくり〉
- 12/13 (火) ワーク3-1 〈ファンドレイジング計画をつくる〉
- 1/17 (火) ワーク3-2 〈ファンドレイジング計画をつくる〉
- 2/20 (月) 参加団体による成果発表

◆事例紹介◆ NPO法人報徳の会・内田未来楽校、NPO法人ワーカーズコレクティブういず

◆ファシリテーター◆ 志村はるみ (公益財団法人ちばのWA地域づくり基金)

◆会場◆ 千葉市生涯学習センター 大研修室

◆参加団体◆ NPO法人はぐくみの社を支える会、株式会社ベストサポート、NPO法人3.11こども文庫おひさま、一般社団法人かんでんち、一般社団法人はこぶね、一般社団法人COCOPORTA、一般社団法人いっぽの会、NPO法人フリースタイル市川

ちよこっと

## 参加団体 インタビュー

千葉のNPOのポテンシャルの高さをあらためて感じる事ができた今回のワークショップ(WS)。最終回に「もうすでにWSで学んだことを実践している」と発表していたNPO法人フリースタイル市川(市川市)の代表理事・稲村絵美里さんにWSでの成果について伺いました。



(左)稲村さん (右)ちばのWA大村

ちばのWA: 今回の連続WSに参加してみようと思った理由を教えてください。

稲村さん: 2020年の設立以来、維持費・固定費はあまりかけずに運営してきたんですが、昨年(2022年)、事務所の移転やフードバンク用の倉庫を借りるための費用が必要となり、ファンドレイジングを意識するようになりました。そんな時、メンバーからWS参加の誘いがあり受講してみようと思いました。

ちばのWA: 受講前、資金以外の課題は感じていましたか?

稲村さん: 資金以外の部分は見えてきていなかったと思います。これまで大きな課題がなかったぶん、組織運営という意識はあまりありませんでした。定例会議も毎週やっていましたが、「できる人がやる」「出てくる小さな課題にどう対処するか」という状態でした。

ちばのWA: WSの成果として、組織図を作ることができたことと会員制の導入を挙げていらっしゃいました。

稲村さん: もともと事業部制にする話が出ていたんですが、事業の構造化のワークの時に自団体の事業を書き出したことをきっかけに、事業を「フードバンク事業部」「コミュニティ事業部」「コミュニティコンサルタント事業部」の3つに整理し、さらに「営業部」「事務局」を加えた組織としました。組織図を作ったことで、これまでの「出来る人がやる」という体制から「担当者制」に移行できたこともよかったです。また、これまでメンバー・理事・正会員の体制で運営していましたが、4期目から会員制を導入し正会員・賛助会員・サポート会員を募集するようになりました。

ちばのWA: フードバンク活動のボランティアさんとの関係を見直すきっかけにもなったそうですね。

稲村さん: 活動に関心を持ってくださる方は多く人数的には充足していましたが、ボランティアさんが無理をしている・疲弊しているように見えて心配していました。そこでWSの後、ボランティアさんに集まってもらいお話しを聞く会を開いてみたところ、ボランティアさんの疲弊は『要望が伝わらない、言いたいことがいいにくい』という環境にあることがわかったんです。ボランティアさんのアイデアや要望、困りごとに対応してみたところ離脱する人も減り、継続して活動してくれるようになりました。『聞く』って大事なことだと思いました。

ちばのWA: WS終了後もファンドレイジング計画を活用して下さったことがわかり私たちもうれしいです。今後のご活躍も楽しみです! 最後に、WS最終回で今後の課題として挙げていた「自団体の価値の明確化」についてお聞かせください。

稲村さん: 正直、まだ「価値」がわかりにくい状態だと思いますが、新たに団体の仲間になる人は『フリースタイル市川のメンバーのファン』という人が多いことに気付いたんです。フリスタの仲間になってみたいと思ってもらえる、それも団体の価値のひとつなのではないかと感じています。



〈NPO法人フリースタイル市川〉  
市内の各地域で様々な活動を行っていたメンバーが出会い、2020年10月にNPOとして発足。点と点が線で結ばれ、やがて網の目が面となるような、地域をつながりを作っていくことを目的とする。多様なバックグラウンドや人脈を持つメンバーが、「やりたいこと」を「楽しみながら」実践していく。現在の主な事業はフードバンク、いちかイギ、まちづくりコンサル、Webメディア発信など。

ファンドレイジングは「財源」「事業」「組織」の三位一体で考えていくことが重要と言われています。当初は資金の必要に迫られ本WSを受講した同団体ですが、財源の獲得のみにとらわれることなく自団体の事業と組織の在り方に向き合ったことが、その後のさまざまな良い変化を生み出しているのだと思います。ちばのWAにとっても「NPOの組織基盤強化は一朝一夕にはできない地道な作業、でもやれば確実に成果は出る!」ということを実感させていただく機会になりました。